



ツキノワグマの被害に遭わないために

動物特性
令和5年は、全国でクマの目撃や被害報道が多数ありました。町内では、クマの目撃はありませんが、爪痕が発見され、小丸地区では、センサーカメラによる撮影もありました。

なぜクマが町に出没するのか
ツキノワグマのエサ（どんぐりなど）が不作となり、家畜の飼料や人の残飯といったエサを求めて、人の生活圏に出没していると考えられています。

ツキノワグマは臆病な性格のため、人を襲って食べることを目的に人里に下りてくることはありませんが、農地や住宅街にエサが食べられる場所を見つけると、その場所に執着して何度もやってくるようになります。

対策のポイント
対策としては、人が生活する場所ので、エサが食べられる場所を減らすことです。これは環境の問題ももちろんありますが、人身被害に関する出没でいえば、人為的な原因が大きいため、適切な対策をすることで被害を減らすことができます。

①農地（特に畑や果樹園）は防護柵（電気柵3段）で防除し、農作物を与えない。
②生ごみや、食べ物のポイ捨てをしない。
③動物（ネコやトリ、サルなど）に対して餌付けをしない。

動物はエサに対して区別をすることは少ないため、その残り物を他の動物が食べることも珍しくありません。

一人ひとりが鳥獣被害を減らしていく意識を持つことで、動物被害の少ない住みやすい町にしていきたいです。



発見されたツキノワグマの爪痕



ツキノワグマの糞(新)



ツキノワグマの糞(古)



足跡

ツキノワグマの足跡・糞を見つけたら、すぐに引き返しましょう。

ツキノワグマの糞は食べ物の由来の色をしており、色が残っている糞の近くでは身を潜めている可能性があります。時間が経過した糞は、酸化して黒色となります。

画像提供：NPO法人おーだす

農林水産課の有害鳥獣対策を紹介

防護柵の貸与（出荷を目的とした農地に限る）

追い払い花火の配布

鳥獣被害に関する勉強会



町ホームページでもご覧いただけます

農林水産課農林水産係
0240(34)0246

INTERVIEW



みんなの鳥獣対策

町内で獣種と侵入経路を特定したうえで、効果的な鳥獣対策を行っている営農者にお話を伺いました。

対策場所：川添地区

加害獣種を教えてください

カラスの被害です。

いつから、どんな被害がありましたか

毎年柿の実が熟す頃に果樹の上のほうの枝にとまって、実をつつかれる被害がありました。

落とした実は木の下でイノシシやほかの動物も食べるため、カラスの被害対策を最優先に取り組みたいと思いました。

具体的な対策方法を教えてください

所有している柿の木を網で囲い、木にとまれないようにしました。また、実が落ちてみすぐ回収できるように出入口も確保しました。



上部からの侵入はネットを設置することで被害軽減につながります。

対策場所：立野地区

加害獣種を教えてください

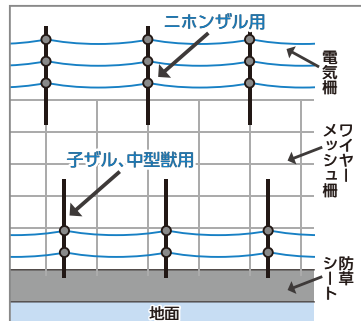
ニホンザル（子ザル）とカラス、その他にもアライグマ、ハクビシン、タヌキなどの中型獣です。

いつから、どんな被害がありましたか

果樹を栽培していますが、果樹選別の7月頃には果樹上部から侵入するカラスの被害があり、8、11月には、下部から侵入するニホンザルや中型獣の被害がありました。

具体的な対策方法を教えてください

上部の侵入は防鳥ネットを設置し、下部の侵入はワイヤーメッシュの柵と電気柵を複合設置し対応しています。それでも子ザルや中型獣が網目をくぐって侵入す



防護柵設置のイメージ

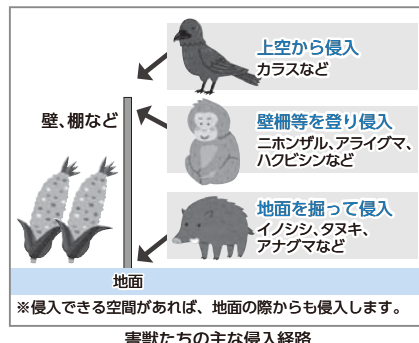
るため、地面の際に電気柵と漏電防止のための防草シートを敷設しました。

対策の「コツ」について教えてください

一番大切なことは、よく観察することです。動物が農地に侵入すると、確実にそこから被害が拡大します。何か変化があったら手を加えることが大切です。

《農林水産係から一言》

動物がどこから侵入しているかよく観察し、考えながら対応されていると感じました。被害獣種の侵入経路特定は、より効果的な対策検討の第一歩になります。



害獣たちの主な侵入経路

※侵入できる空間があれば、地面の際からも侵入します。